

4 年制大学卒病院事務職員の卒前教育について

公立大学法人名桜大学国際学群経営情報教育研究学系 診療情報管理専攻
准教授 大 城 真理子 (6 期生)



6 期生の大城 (旧姓久保) 真理子です。琉大を卒業後、愛知県の公立陶生病院で臨床研修医から病理部医員となり、病理専門医資格を取得した後に沖縄県立北部病院の病理診断科に奉職しておりましたが、2012年4月より名桜大学に赴任し、診療情報管理士を教育する立場になりました。この場をお借りして、私が目指している病院事務職員の卒前教育について書かせていただきます。

多数の職員を有する病院組織の三本柱は医療職、看護職、そして事務職だと私は理解しています。この三本柱となる人材において、医療職の中心的存在は医師、看護職の中心となるのは看護師、ですが事務分野の職員については核となる専門資格が存在していません。事務系の幹部職員であっても高等教育 (大学教育) の中で医学や医療を学んだ職員はほとんどいないというのが実情です。大学で他分野を専門としてきた人物が就職して初めて医療や病院現場について知り、OJT (on the job training) で病院事務職として働いています。病院において事実上、無資格者の集団であることが許されているのは事務職のみです。

病院で働いてきた20年、残念ながら事務職員に足を引っ張られているように感じることも何度もありました。決して個々の職員が悪い訳ではなく、多くの事務職員は職務に熱心なのですが、事務の論理と医療側の論理がまったく異なるため、対立も珍しくありませんでした。その多くは医療についての理解不足を背景としたもので、高度化した現代の医療はOJTでは限界があり、病院事務部門においても同様であることを痛感していました。

病院におけるEBM (evidence based medicine) を実効性あるものにするためにはevidence based managementが必要であり、そのためにはevidence

based training が必須です。医学系、看護系においては国家資格受験の前提としての専門教育が存在していますが、事務部門には国家資格がありません。せめて大学教育の中で医療系事務職員を教育できないものだろうか、と置いていたところ、ごく身近な名桜大学に診療情報管理専攻があることを知り、それはまさに私が求めていたコースでした。

名桜大学は設立当初は第3セクター方式の私立大学でしたが、3年前に沖縄県北部十二市町村が管理する公立大学法人に移行しています。診療情報管理専攻は国際学群の中にあり、経営情報教育研究学系の一専攻として、臨床医学、病院経営、医療情報学、そしてWHOの国際疾病分類 (ICD, International classification of disease) が専門科目として必須であり、資格としては民間資格である診療情報管理士資格の取得を目標としています。

まだ赴任して一年ですが、他の医療専門職と共に病院のチーム医療の一員となれる、21世紀の病院にふさわしい事務職員を育成したいと日々、努力しております。国公立大学では現時点で唯一の診療情報管理専攻ということで、県内、県外から優秀な学生も集まっておりますので、10年後、20年後が楽しみです。琉大医学科同窓生の皆様のお力をお借りすることもあるかと存じます、その折はどうぞよろしくお願い申し上げます。



学生と共に参加した診療情報管理学会